鈴関東·太田S

遮熱シート&エリア空調機で最大10度低下

は、2基のレベラーラ

|アで働くスタッフは

一適さを実感する。

両サイドをレベラーラ インのパイラー近辺。

きやすさを重視したサステナブルな職場環境の改善・ するスチールサービス部門の全8サービスセンター 整備により、SCの労働環境は大幅に改善した。 っており、同グループが進める「協進の森」活動、 よる夏場の猛暑でSCの現場では過酷な労働環境とな 木勝氏)は2024年度にコイルセンター事業を展開 (SC)に遮熱シートを設置した。近年は気候変動に 五十鈴グループ(本社・東京都千代田区、社長・鈴 働

鋼板製品の取り扱い作

イラーから流れてくる

業で1日に200回程

機械熱がこもる上、パ

インに挟まれた場所は

五十鈴関東(栃木県

旬までに工場棟(51 は40度超えとなる日が 域に位置し、夏場の最 の中でも有数の暑い地 栗原和宏氏)は北関東 馬県邑楽郡、SC長・ 英氏)の太田SC(群 スファルト上の日なた 高気温は36度以上、ア 小山市、社長・太田博 15平方)() の屋根全|低下した。 △田SCでは6月中 度計による測定)だっ 裏からの放熱が大幅に は約36度前後と、屋根 果は、シート設置前の 夏の猛暑時に備えた。 旬までに設置を終えて 調機(11基)は7月中 屋根裏温度が50~55度 たのに対して、設置後 (簡易式のレーザー温 遮熱シートの断熱効

少なくない。

太田SCの屋根全面に 設置した遮熱シート

エリア空調機 全11基を設置した

を完了。またエリア空 面に遮熱シートの設置 場所に多く設置。作業 却するため、冷風の流 るエリアを集中的に冷 ドは台数を抑えた。 品置き場、コイルヤー 現場スタッフが作業す 置き場や出荷待ちの製 者が常駐しない仕掛品 れを最大限に活用する 空調機については、 番暑かったエリア 太田SCの中で特に 度の反復動作を行い

3万歩を超えることも 作業者の歩数は1日で このパイラーエリア

計した。遮熱シートと 調機を設置し、重点的 できるように空調を設 に冷たい空気だまりが には3方向にエリア空

> リアの温度は夏場40度 を超えることが多かっ 生まれ変わった。 内では最も温度が低 と10度近く低下。工場 空調機がなかった同エ く、快適なエリアへと 実際にパイラーエリ 設置後は30度台 |超える中で汗も多くか |て動き回ることが多 り、他のエリアに比べ 度を下げないように早 く作業する必要があ い。去年までは40度を いたが、作業環境は非 「レベラーのライン速

常に良くなった」と快

エリア空調機を設置し アを集中的に限定して とは難しいが、現場ス 鈴木秀明副SC長は | ファンや大型| 扇風機な | の採用促進につながっ

の放熱が大きく低下し |も工場全体で屋根から |タッフが作業するエリ|つくることができた| た。遮熱シートの設置

「工場全体を冷やすこ | ども活用することで、 より快適な職場環境を

た。既存のシーリング | 用の多様化、新規人材 め、労働環境改善が雇 タッフが現場で働き始 今夏から初めて女性ス 実際に太田SCでは

五十鈴グループが23

一現場で広がっている。 実にグループ内のSC すい職場環境」は、 年度から取り組みを進 ィ推進体制」における 重要テーマの「働きや める「サステナビリテ